HOKKAIDO UNIVERSITY HOSPITAL
地域医療連携福祉センター
NEWS LETTER
No. 19

北海道大学病院地域医療連携福祉センター 第2回 地域連携研修会を開催

北海道大学病院は、４月15日（水）午後７時から北海道大学医学部臨床講義棟第３講堂において、北海道大学病院地域連携福祉センター第２回地域連携研修会を開催しました。本件研修会は「紹介・逆紹介業務」について、各医療機関の医師及び担当者に認識を深めてもらうこと、併せて可活動膀胱治療のガイドラインを紹介することを目的として、本院近郊の連携機能協定病院等を対象として企画いたしました。

当日は渥美達也　地域医療連携福祉センター長から、本研修会を開催することとなった経緯等について挨拶があり、講演１として「北海道大学病院の紹介･逆紹介業務の現状とあり方」について、石岡明子　同センター看護師長から同制度について具体的な説明がありました。

引き続き泌尿器科の篠原信雄教授よる講師の橘田岳也助教のご紹介に始まり、講演２として、「高齢者の頻尿と泌尿器疾患」のタイトルで、可活動膀胱の疫学、診療ガイドラインや同症治療薬に関する最新の情報について、講演がありました。

当日は21名（学外11名・学内10名）の参加者があり、講演後、質疑応答が行われ盛況のうちに終了となりました。同センターでは今後も定期的に他の専門領域の研修会を開催する予定です。

渥美センター長の挨拶

研修会の様子

● 消化器内科 ●

消化器内科の紹介

消化器内科　外来医長　小　川　浩　司

北海道大学病院消化器内科では肝疾患、消化管疾患、がん化学療法、胆膵疾患、炎症性腸疾患の5分野を柱に幅広い総合消化器内科診療を行っています。各診療グループは消化器外科、放射線科など他診療科とも連携して、患者さんのために診療を行っております。

肝疾患

B型、C型肝炎などのウイルス性肝炎に対する診療をしており、B型肝炎に対する核酸アナログ製剤、C型肝炎に対するインターフェロンやプロテアーゼ阻害剤、NS5A阻害剤などの直接的抗ウイルス薬（DAA）の導入を積極的に行っております。また自己免疫性肝疾患や脂肪性肝疾患に対する診断、治療も行っております。更に肝癌に対しては症例に応じてラジオ波焼灼術などの経皮的局所治療、消化器外科に依頼し肝切除、カテーテルを用いた肝動脈塞栓術、肝動注化学療法、放射線療法、分子標的療法などの治療を行っております。

消化管疾患

早期の食道癌、胃癌、大腸癌の内視鏡治療を中心に診療を行っています。画像強調内視鏡による精密診断の後に、内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)による治療を行っています。技術の高い医師がそろっており、治療困難症例も受け入れています。また、胃食道逆流症、機能性胃腸症、ピロリ菌三次除菌（ピロリ菌専門外来）などの良性疾患の診断、治療や、各種臨床試験にも力を入れています。

胆膵疾患

良・悪性疾患を問わず、全ての胆膵疾患に対して診療を行っています。非侵襲的検査である超音波内視鏡検査（EUS）を駆使した診断・治療を積極的に行っております。ERCPには急性膵炎がある一定頻度に生じますので、可能な限りERCPを行わないようEUSを駆使した診断に努めています。一方で、黄疸などに対してはERCPによるドレナージ術を中心に行っています。ERCPを複数回行わなくて済むように、診断からドレナージ術の終了までは短期間で行っています。超音波内視鏡ガイド下穿刺生検術（EUS-FNA）あるいはEUS-FNA関連手技としてドレナージ術による治療も積極的に行っております。全国でも有数の症例数を誇っており、短時間で診断・治療が可能となっています。また、胆膵癌に対する化学療法も積極的に行っています。

がん化学療法

食道癌、胃癌、大腸癌、膵癌、胆道癌、GISTに対する化学療法を行っています。治療対象は、切除不能・根治不能癌に対する全身化学療法から、術前・術後の補助化学療法まで、幅広く行っております。各種臨床試験、治験治療はもちろんのこと、治療難渋例についても、放射線科、外科、当科他グループと連携のうえで、さまざまな治療を行っています。また、各種対症療法の検討・研究も行い、有害事象対策に関しても積極的に取り組んでいます。

炎症性腸疾患

潰瘍性大腸炎とクローン病の2大疾患を中心に、炎症性腸疾患が疑われる患者さん、既存治療でうまくいっていない患者さんの診療を広く受け入れています。また難治例に対しては抗TNF-α抗体療法、免疫抑制療法など最新の治療を積極的に行っています。先端研究としては、組織再生幹細胞研究グループと連携しクローン病に対する卵膜由来間葉系幹細胞移植の第一相試験の準備中であり、また潰瘍性大腸炎に対しても「抗菌薬３剤併用による難治性潰瘍性大腸炎の治療」研究班の研究代表施設として治験の準備を開始しております。

消化器内科の新患外来は、月曜から金曜まで毎日予約制で診察し、再来も担当医師による専門外来として診療を行っております。対象となる患者さんがいらっしゃいましたら是非ご紹介ください。

● 麻酔科 ●

急性期から慢性期まで豊富な症例に基づいた全身管理

麻酔科　外来医長　敦賀　健吉

当麻酔科の特徴は大学病院ならではの豊富な経験に基づく臨床の実践です。また ICU を含めた周術期（術前、術中、術後急性期）の全身管理にとどまらず、そこから蓄積された経験を発展させてペインクリニック、緩和ケアなどの痛み治療や高気圧酸素治療も行っています。

周術期管理

北大病院では新生児から高齢者までのあらゆる年齢層において、一般的な疾患から非常にまれな疾患まで幅広く診療が行われていることから、一旦外科的治療が選択されれば非常に多様な麻酔管理が行われることが求められます。さらにそれぞれの診療科が最先端の外科的治療法を臨床応用する場でもあり一層の見識が必要になることもあります。当科で診療に当たることは即ち全国的にも高いレベルの研修になっていることと自負しております。

麻酔前には可能な限りの症例に関する情報を得るために専門医による外来診察を行っています。そこでは単に医学的な情報を集めるだけではなく、予定されている麻酔法や必要な処置等について説明し、麻酔を受けられるご本人の不安を少しでも軽減できるよう努めています。麻酔後も術後管理を行う ICU に麻酔科医が参加している他、選択した麻酔法が適切であったか確認する目的で随時病棟に術後訪問にも行っています。

痛み治療

ペインクリニック外来は毎週月・水・金曜日に行っております。主に神経障害痛と呼ばれる難治性の痛みの治療を行っております。痛みの性質や種類によって内服治療や神経ブロック、レーザー治療などを選択して患者さまの痛みの軽減を目指します。特にレーザー治療では高エネルギーの 10Wパルス半導体レーザー治療器を保有しており、適応によっては神経ブロックに準じた治療効果をより安全に得ることが可能です。また緩和ケアにおいても痛みの治療は非常に重要であることから、当院の緩和ケアチームにも麻酔科医が参加してその専門性を生かしております。

痛みは非常に辛い症状です。当院の痛み治療で、少しでも患者さまの強い痛みが軽減し、日常生活が楽に過ごせるようになればと思っております。

高気圧酸素治療

高気圧酸素治療とは気圧の高い環境下で純酸素を吸入することで、組織の低酸素などから起こる障害を治療する方法です。当院では第２種高気圧酸素治療装置を設置しており、多人数が同時に治療可能です。

また、スポーツ医学の分野でも高気圧酸素治療の有用性は認められており、多くのスポーツ選手が当科での治療を行っております。一般の方に対しても治療コースを用意しておりますが、保険の適応外となる事から自費診療とさせて頂いております。

高気圧酸素治療の新患はまずペインクリニック外来を受診して頂きますが、院内の患者さまの治療を優先させて頂くことから、軽症の減圧症に対する再圧治療は出来ない場合がございます。ご了承ください。

● 核医学診療科 ●

外来診療のご紹介

核医学診療科　外来医長　真鍋　治

核医学診療科の外来診療は、水曜日及び金曜日に開かれています。本診療科では放射線治療の一種として、放射性同位元素（アイソトープ）を用いて製造された放射性医薬品を口もしくは静脈から体内に投与することによる治療（内照射）を行っています。主に甲状腺疾患への治療として行われており、半世紀以上の歴史がある効果・安全性の確立した治療です。ここ数年でアイソトープを利用して治療できる疾患が増えました。患者さんにより優しい治療をモットーに、全人的な診療を行って参ります。

1. 甲状腺がんのアイソトープ治療

甲状腺がんに対して甲状腺全摘術が行われた方が対象です。甲状腺がヨウ素を材料としてホルモンを作る性質を利用します。アイソトープであるヨウ素－131（^{131}I）のカプセルを内服すると、甲状腺の機能が残っている残存病変や転移病巣（リンパ節転移、肺転移、骨転移など）にアイソトープが取り込まれるため、その細胞だけでなく、その近傍のがん細胞が破壊されます。大量投与が必要なため入院して治療を行います。全道から患者さんが紹介・来院され説明や診察・入院予約を行っています。

2. バセドウ氏病のアイソトープ治療

バセドウ氏病は、甲状腺ホルモンの血中濃度が異常に高くなることによって甲状腺腫大、動悸、手の震え等の様々な症状を示す疾患です。甲状腺を小さくすることを目的にアイソトープ治療を行います。本邦では抗甲状腺剤での治療が広く行われていますが、アイソトープ治療を受ける方の割合が増えています（特に抗甲状腺剤で副作用が出た場合）。^{131}I のカプセルを内服しますが、甲状腺がん治療に比べて投与量が少ないために、外来・入院どちらでも治療可能です。

3. がんの骨転移に対する疼痛緩和のためのアイソトープ治療

がんの骨転移の痛みには様々な治療法がありますが、2008 年より塩化ストロンチウム－89（^{89}Sr）を静脈注射し、全身の骨転移病変に放射線を当てることで疼痛を緩和する手法が認可されました。注射 1 回で約 3 ヶ月効果が持続するといわれています。この治療の適応には様々な条件があるため、主治医の紹介が必要となります。原則として外来での治療となります。

4. 低悪性度の難治性・再発悪性リンパ腫に対するアイソトープ治療

過去の治療で再発したり、治癒に至らない低悪性度の悪性リンパ腫にこの治療が検討されます。2008 年より開始された治療でありイットリウム－90（^{90}Y）で標識した、リンパ腫の細胞と特に結合する抗体（イブリツモマブ）を注射することで、効果を図る治療方法です。血液内科の医師と共同で治療しています。外来で治療できます。

以上、独特な治療法であり、被曝国の歴史から放射線治療には恐怖心を持つ患者さんも多いことから、患者さんの目線を心がけて診療や治療の説明（仕組み・副作用・前準備等）を行うため、初診では 1 時間程度の時間がかかります。そのため、地域医療連携室で予約した時刻から遅れることもありますが、ご容赦ください。また看護師の方からは、不安な事象を取り除くため様々な相談にお答えし、治療の準備（特にヨードの制限）や入院後の管理についての説明を行っています。治療後の経過観察も必要に応じて紹介病院の医師と共に行っています。

● 小児科 ●

小児科外来診療のご紹介

小児科　外来医長　武　田　充　人

小児科外来は幅広い分野で専門性の高い疾患に対応できるよう、10の診療グループによって専門性の高い医療を提供しております。地域連携を重視しており、道内各地にある関連病院とも協力してスムーズに患者さんをご紹介いただけるように進めてまいります。一般新来は月～金曜日午前に行っております。診療グループへのご紹介の場合は各診療グループにより異なりますので、小児科外来受付までご相談ください。

診療グループ

免 疫 外 来：免疫不全症　膠原病　アレルギー疾患　など
神 経 外 来：てんかん　発達障害　神経筋疾患　など
血 液 外 来：小児血液疾患　固形腫瘍　など
腎 臓 外 来：ネフローゼ症候群　慢性腎炎　腎不全　など
内分泌外来：糖尿病　甲状腺疾患　低身長　副腎疾患　など
循環器外来：先天性心疾患　川崎病　心筋症　不整脈　など
新生児外来：低出生体重児の発達のフォロー　など
感染症外来：感染症の専門的な診断　など
遺 伝 外 来：染色体異常　遺伝相談　など

小児科外来　新来・再来　医師当番表

	月		火		水		木		金	
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM
1診	新来/再来 有賀　正 （免疫）		新来/再来 小林一郎 （免疫）		新来/再来 田島敏広 （内分泌）		新来/再来 有賀　正 （免疫）	心理検査 伊藤詩菜	新来/再来 小林一郎 （免疫）	
2診	代謝 小杉山清隆 (4)		感染 石黒信久		内分泌/糖 尿病 石津　桂		血液 井口晶裕		腎臓 岡本孝之	
3診	循環器 山澤弘州		内分泌/糖 尿病 石津　桂		循環器 武田充人		循環器 武井黄太		血液 井口晶裕	
4診	血液 長　祐子		内分泌/糖 尿病 田島敏広		新生児 長　和俊		腎臓 佐藤靖征 (1, 3, 5) 山﨑健史 (2, 4)	腎臓 高橋俊行 (2, 4)	新生児 秋元、森岡 早坂、卯月	
5診	神経 江川　潔	神経 白石秀明	遺伝 外木秀文 佐藤大介	神経 柳生一自	神経 白石秀明	神経 白石秀明	免疫・ アレルギー 山田雅文	新生児 秋元、森岡 早坂、卯月	内分泌・糖 尿病 石津　桂	
6診										
7診			内分泌/糖 尿病 森川俊太郎	内分泌新来 森川俊太郎	アレルギー 竹崎俊一郎	神経 香坂　忍				
9診	心エコー		血液 長　祐子	循環器新来	心エコー	循環器 泉　岳	心エコー			循環器 佐々木　理
予診室	神経処方 AM　神経 G		神経 白石秀明		神経 伊藤智城	血液・移植 長期外来 大島淳二郎			内分泌 森川俊太郎	

● 口腔内科 ●

外来診療のご紹介

口腔内科　外来医長　佐　藤　千　晴

国立大学では日本初の口腔内科の標榜を行っています。「口腔内科」といいますと聞きなれない言葉だと思いますが、「口腔を通して全身状態を診、全人的視野に立って口腔の健康にあたる」学問です。社会的にはまだまだ認知不足ですが、年々、口腔内科的疾患の発生頻度は高まっており当科には全道各地から患者さんが集まってきています。

対象疾患

診療の４つの大きな柱は、

①全身疾患と口腔病変との関連

口腔粘膜疾患はウイルス性疾患や天疱瘡、類天疱瘡などの皮膚科的疾患、白血病などの血液疾患の部分症状として出現することがあります。また、シェ―グレン症候群、ベーチェット病などでは口腔病変から原疾患が見つかることが多くあります。歯科金属アレルギー、誤嚥性肺炎予防のための摂食･嚥下リハビリテーションも積極的に治療を行っています。

②口腔内科学的疾患

最近増えている口腔乾燥症、舌痛症を代表とする口腔心身症、味覚異常、口腔カンジダ症、口腔粘膜疾患、顎関節疾患、唾液腺疾患、口腔顎顔面痛などが該当します。

このうち、舌痛症では、薬物療法を積極的に取り入れることでかなりの効果を挙げており、医療機関を転々としてきた「さまよえる患者」さん達に救いの手を差し伸べることができるようになりました。味覚異常、口腔カンジダ症の患者さんも急増しています。味覚異常の原因として従来から言われてきた亜鉛不足のみならず、口腔カンジダ症、口腔乾燥、舌炎などの口腔疾患の割合も多く認められています。口腔カンジダ症は明らかな要因がない健康な高齢者でも、単に口腔乾燥や多種薬剤の服用、義歯の清掃不良などで発症します。

③有病者の口腔疾患治療

北大歯科診療センターを受診する高齢者の割合は４割でその殆どが、高血圧、不整脈、糖尿病などの基礎疾患を持っています。これらの患者さん達の全身状態を評価し、安心して効率の良い歯科治療の提供を行っています。この一環として医科入院患者さんに対する往診による口腔ケアや、移植（造血幹細胞、肝、腎）や手術前の感染源の精査･治療を積極的に行っています。

④従来の口腔外科的疾患

舌癌、歯肉癌などの口腔悪性腫瘍をはじめ、エナメル上皮腫などの良性腫瘍、外傷、嚢胞、炎症、インプラント、埋伏歯抜歯などの治療も多数行っています。

治療方針

口腔顎顔面領域は摂食・嚥下・発音などの重要な機能の他に、審美性が重視される領域であり、人の QOL に大きく影響します。そのため、患者さんの状態を的確に判断し、迅速に診断治療を行うと共に、早期発見による最小限の外科的手術や、機能温存のための内科的アプローチを特徴としています。また、疾患を総合的に治療するために医科の関連各科とも協力して診療を進めています。

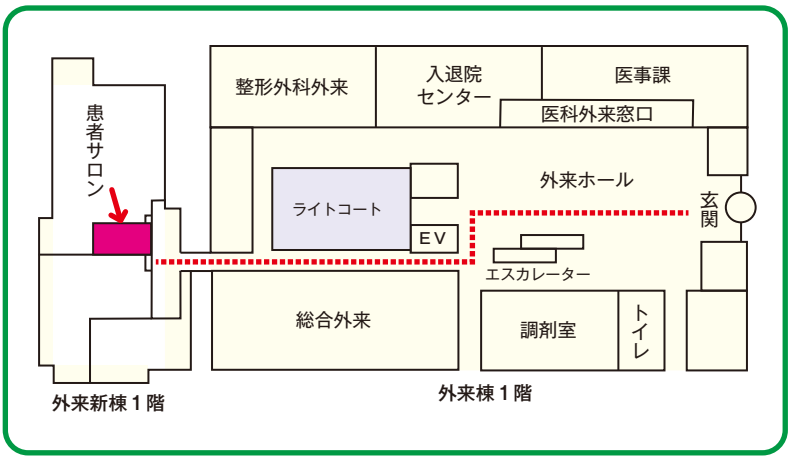
診療時間

初診患者さんは月曜～金曜の奇数日の午前中に受け付けています。原則予約制でお願いしています。詳細は歯科診療センター第三診療室（706-4349 または内線 4349）までお問い合わせ下さい。

がんサロンなないろ

① **ミニ講義13:30～ ・ 交流会14:00～15:00**
次回開催予定　6月26日(金)(月1回　不定期)
会場　外来新棟1階サロン
問合せ先　腫瘍センター(がん相談支援センター)706-7040　予約不要

② **わかばカフェ**
毎週月曜日（祝日を除く）午後2時～4時、外来新棟1階患者サロンにて開催しています。
子育て世代のがん患者さんのための患者サロンです。



今年度医療従事者向け研修会開催予定

開　催　日	タイトル	会　　場	対　　象
平成27年６月11日・12日（木・金）	外来がん治療研修会	腫瘍センター カンファレンスルーム	医師・薬剤師・看護師 ３名１グループ
平成27年６月27日・28日（土・日）	緩和ケア研修会	第３講堂	がん診療に携わる医師
平成27年８月８日・９日（土・日）	ＥＬＮＥＣ－Ｊ研修会	医学部学友会館フラテ 大研修室	看護師
平成27年９月11日(金)	地域連携懇話会	ＫＫＲホテル札幌	地域医医療機関の医師、関係者

今年度公開講座開催予定

開　催　日	タイトル	会　　場	対　象
平成27年７月26日(日)	膵臓がん市民公開講座	学術交流会館	一般市民
平成27年11月23日(月)	乳がん市民公開講座	学術交流会館	一般市民
平成27年12月12日(月)	大腸がん市民公開講座	学術交流会館	一般市民

■問い合わせ先　北海道大学病院 医療支援課 地域医療連携係
TEL：011－706－5629　E-mail：itiiki@jimu.hokudai.ac.jp

平成27年度北海道大学病院地域連携懇話会開催のお知らせ

本懇話会は、本院と関連の深い地域医療機関の関係者に本院の紹介と報告を目的として企画しています。前年は８月29日ロイトン札幌にて開催し、大盛会でした。
本年は下記のとおり開催します。

記

1　期　日　平成27年９月11日（金）　15：30～20：00

2　場　所　ＫＫＲホテル札幌「３Ｆ鳳凰」

3　対象者
本院と関連の深い地域医療連携係医療機関等の医療従事者及び関係者

4　内　容
講 演 ①「北海道大学病院地域医療連携福祉センターの紹介」
講師：地域医療連携福祉センター長　渥美　達也
講 演 ②「陽子線治療センターの紹介」
講師：陽子線治療センター　特任准教授　清水　伸一
講 演 ③「歯科診療センターの紹介」
講師：歯科口腔内科診療科長　北川　善政
講 演 ④「もの忘れ検査入院の紹介」
講師：精神科神経科　講師　中川　伸
講 演 ⑤「泌尿器科診療とダヴィンチ」
講師：泌尿器科　助教　丸山　覚
特別講演「北海道の地域医療について」
講師：北海道保健福祉部地域医療推進局地域医療課長　大竹　雄二

5　問い合わせ先　北海道大学病院 医療支援課 地域医療連携係
TEL：011-706-5629　E-mail：itiiki@jimu.hokudai.ac.jp

・編・集・後・記・

４月より地域医療連携係に配属になりました幕田典子と申します。
３月まで医療福祉相談室におりましたので患者さんへの窓口対応がメインの業務でしたが、今度は研修会開催準備等の業務や経費に関わる業務等と内容が大きく変わり、まだまだペースがつかめず悪戦苦闘しております。
不慣れなためご迷惑をお掛けしておりますが、日々努力してまいりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

発行　平成27年5月
北海道大学病院
地域医療連携福祉センター
〒060-8648　札幌市北区北14条西5丁目
TEL：011-706-7943（直通）
FAX：011-706-7945（直通）
http://www.huhp.hokudai.ac.jp/relation/